

京都労働局

年末年始無災害運動

2015年12月1日～2016年1月15日

～あせらない 急ぐときほど落ち着いて～

京都府内の平成27年の休業4日以上死傷者数は、平成27年10月末速報値において、1792人と前年同期と比較して10.3%増加、死亡者数は15人と前年同期より2人増加しています。特に、建設業の死亡災害は6人と、前年の3人と比較して2倍になっています。

京都労働局では、労働災害の増加率が平成27年8月末速報値において対前年比で10%を越えたことから、平成27年9月11日、京都労働安全衛生関係団体連絡協議会において、「労働災害多発警報」を発令して、労働災害が多発していることの注意喚起した結果、労働災害の増加傾向は止まりましたが、未だ減少傾向に至っていません。

年末年始は、何かとあわただしく、通常作業に加え非常作業等も増えることから、労働災害防止対策を一層推進するため、年末年始無災害運動を下記により取り組みます。

図1 看別労働災害発生件数（10月末速報値比較）

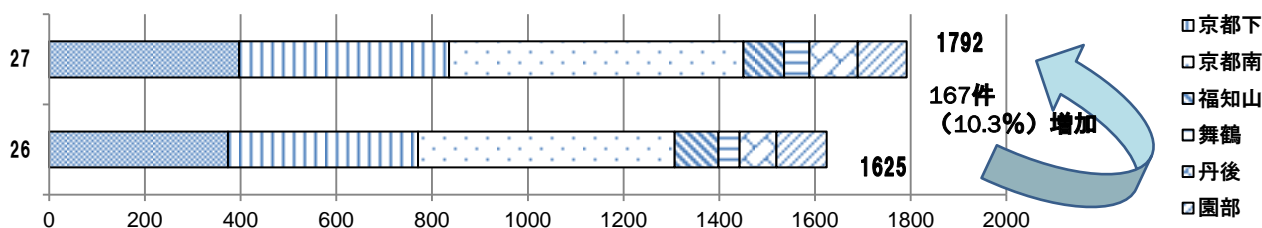


図2 休業4日以上死傷災害（京都）

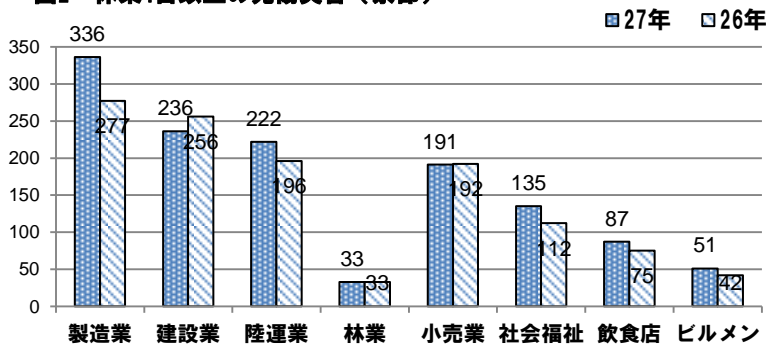
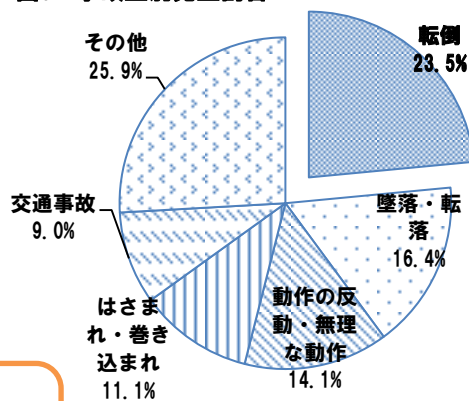


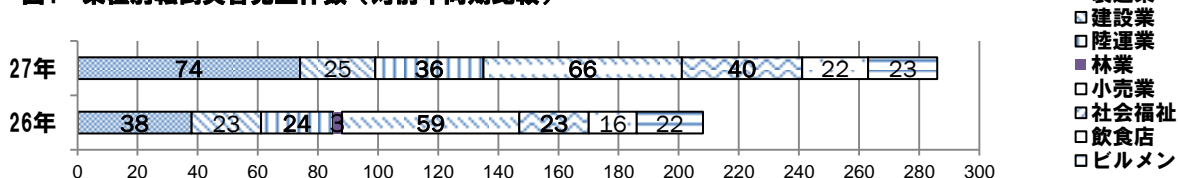
図3 事故型別発生割合



事故の原因別では、「転倒」が421件と、前年同期比で106件（33.7%）増加、災害原因の1位となっており、全体の23.5%を占めています。

また、転倒災害は、製造業で倍増、陸運業で5割、社会福祉施設で7割増しとなる等、これらの業種で多発しています。

図4 業種別転倒災害発生件数（対前年同期比較）



建設業の死亡災害が大幅に増加

図5 業種別死亡災害発生状況

平成27年10月末現在（前年同期と比較）

人

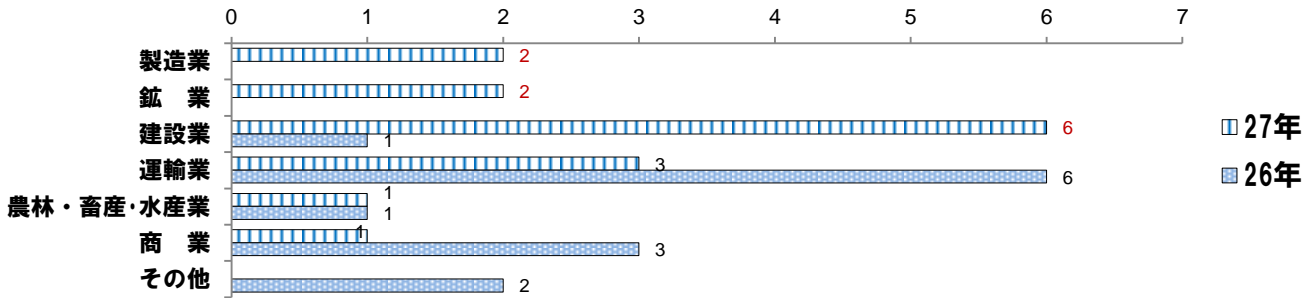


図6 事故の型別 死亡災害発生状況

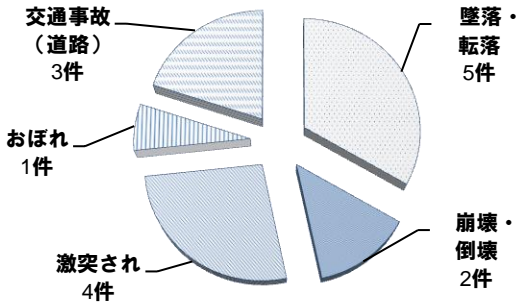
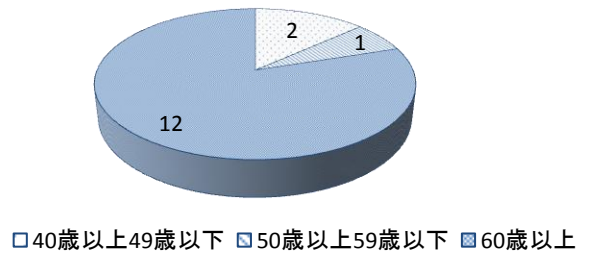


図7 年齢別死亡災害発生状況



墜落・転落災害が最多

平成27年に発生した死亡災害のうち「墜落・転落災害」が最も多い事故の型になっています。
また、伐倒した立木が直撃して死亡した災害も3件発生しています。

高齢者の死亡災害が顕著

平成27年に発生した死亡災害は、いずれも40歳以上の労働者が被災しています。特に、60歳以上の被災労働者は、12人にのぼり、全体の8割を占めています。

資料：京都労働局労働者死傷病報告平成27年10月末速報値

年末年始の労働災害防止に向けた緊急要請

1. 経営トップの参加の下に職場の安全パトロールを実施するなど、職場内における安全衛生活動の総点検を実施すること
2. 安全管理者等の選任義務がない事業場においても、安全の担当者（安全推進者）を配置するなど、事業場の安全管理体制を充実すること
3. 増加している転倒災害を防止するため、転倒災害防止のためのチェックリストを活用するなどして危険要因の洗い出しを行い、転倒災害防止対策の実施を図ること
4. 雇入れ時教育を徹底するなど、効果的な安全衛生教育を実施すること
5. 高齢者の死亡災害が多発していることから、特に高齢者の労働環境及び安全衛生対策に配慮すること